



第515号

スズキ労連

2024年

2月号

スズキ関連労働組合連合会

静岡県浜松市中央区増楽町20

電話(053)447-3079 FAX.053-489-5523

発行人 武藤憲司

編集人 神保昌世

2024年総合生活改善の取り組み方針

第76回中央委員会 満場一致で可決!

スズキ労連は2024年1月19日(金) 18:15より、スズキ労働組合会館(SUN会館)にて第76回中央委員会を開催しました。中央委員101名(男性76名 女性25名)が参加、2024年春の取り組み方針の議件が可決・承認されました。各組合では、今後この方針に基づいて職場討議を行い、独自の要求を組み立てていきます。



《2024年総合生活改善の取り組み 具体的要求内容 =抜粋=》

1.賃金引上げ

①平均賃金要求

すべての単組は、現下の産業情勢を認識した上で、労働の質的向上、物価上昇、人材確保、賃金の底上げ・底支え、企業内外における格差是正の必要性などの要素を総合的に勘案し、賃金カーブ維持分を含めた引き上げ額全体を強く意識した基準内賃金の引き上げに取り組む。直接雇用の非正規労働者についても、これまでの取り組みを踏まえ、賃金改善分を設定する。

②個別ポイント絶対水準要求

・自らの目指す賃金水準の実現に向け、現行水準を維持し、水準向上や格差・体系是正を図るべく、各単組の状況に応じ、絶対水準の要求に取り組む。

③企業内最低賃金協定の締結

・18歳の最低賃金協定締結済みの単組は、自単組の現状を踏まえ、金額の上積みを図る。

173,000円に達していない単組は、173,000円を目安に水準引き上げを目指す。

173,000円に達している単組は、180,000円以上への水準引き上げを目指す。

・正規従業員のみを対象とした協定を締結している単組は、非正規労働者への締結対象の拡大を目指す。

④年齢別最低補償賃金

・各組合は、以下の目指すべき水準を参考に自社に合った水準への引き上げを目指す。

20歳 183,000円 25歳 201,500円 30歳 223,000円 35歳 247,000円

40歳 260,500円 45歳 265,500円 50歳 273,000円 55歳 275,000円

2.年間一時金

①月数

年間5ヶ月以上を基準とする。基準を下回る場合は、最低でも昨年獲得実績以上とする。

②要求基礎

要求の基礎は、賃金引上げ後の基準内賃金とする。

③最低保障制度

40%以上を基本とする。

3.働き方の改善(総実労働時間短縮を含む)

①所定労働時間1952時間未達組合は、引き続きその達成に向けて取り組む。

②有給休暇取得向上に取り組む。

③所定外労働時間の削減に向けて、36協定の年間特別延長時間の引き下げの取り組みを計画的に進める。

④改正労働基準法において、中小企業に対して適用猶予とされている月間60時間超の割増率引き上げについて適正に運用されているか、確認していく。

⑤労働時間に関する労使協議の場の設置など、取り組みの基盤整備を推進する。

4.非正規労働者に関する取り組み

①「同一価値労働同一賃金」に基づく、賃金・一時金を始めとした労働諸条件の改善

②雇用に係る経営対策の取り組み

(無期転換の取り組み、正社員登用の促進等)

③非正規労働者の組織化に向けた取り組み

5.価格転嫁を含む企業間取引の適正化

6.人権デューディリジェンスについて

・企業活動における人権侵害を撲滅するため、取り組みを推進する。

7.政策制度課題への取り組み

【労連/単組が行う活動】

・自動車総連本部主催の政策勉強会への参画

・組合活動内容の周知、理解促進

・自動車総連作成(発信)ツールを活用した組合役員・組合員・経営者への政策理解の促進

「2024年総合生活改善の取り組み」スローガン採択
守ろう生活、働き甲斐を高め、
さらなる一歩を踏み出そう!

【取り組み日程】

●要求書提出

スズキ労組 2月14日(水)

スズキ労組以外(製造・輸送部門) 2月15日(木)~21日(水)

スズキ労組以外(販売部門) 2月15日(木)~23日(金)

●統一交渉日

第一回目 2月15日(木)~23日(金)

(第二回目以降は交渉ゾーンを設定)

●回答指定日

業種ごとの課題を整理した上で、製造部品輸送部門は3月内決着を、販売部門は4月末決着を目標に取り組む。

スズキ労連 第76回中央委員会 武藤会長あいさつ(要旨)

元日に発生しました能登半島地震により、亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地の日も早い復旧を心から祈り申し上げます。



また、2日には羽田空港での航空機事故の発生と、年明け早々悲しいニュースが重なりました。改めて、お亡くなりになられた方々、そしてそのご家族、関係者の皆様に対しましても心からお悔やみを申し上げます。

あらためて近年の度重なる甚大な自然災害に対し、労働組合の考え方の基本である「助け合い・支え合い」の重要性を再認識し、かけがえのない日常に感謝しながら日々爾々と備えてまいりたいと思います。

はじめに

3年以上にわたって世界中を覆いつくし、私たちの生活を一転させた新型コロナウイルスの感染拡大は、日本では昨年5月に感染症法上の位置づけが2類相当から5類に移行し、これまでの行動制限が撤廃され、外出、外食の機会の復活や、外国人観光客も多く見かけるようになりました。各種イベントの再開など個人消費を促す動きも活発化し、皆さんの住む市町でも賑わいが増していることと思います。このように多くの部分で日常を取り戻し、コロナが落ち着きを見せる一方で収まらないのが戦乱です。22年に始まったロシアによるウクライナ侵攻は終わりが見えず、また、中東での紛争も多くの民間人が犠牲となり今も苦しんでいます。その地で暮らす人々が安心して生活できるよう、一刻も早い平和的解決を望んでいます。

そしてこれらの戦乱はエネルギー価格の高騰という形で世界経済に深刻な影響を与え、特に資源を輸入に頼る日本では、電気やガス料金、ガソリン代の高騰にも直結しており、私たちの暮らしに深刻な影響を与えています。

これに輪をかけているのが円安で、原材料やエネルギーの高騰と、円安の影響でここ数年、物の値段はみるみる上がりました。日々の暮らしの中で、価格値上げだけでなく、内容量の減少したステルス値上げという言葉よく聞くようになりました。物価上昇を実感されているのではないかと思います。暮らしの厳しさは、昨年末、公募によって決められる「世相を表す今年の漢字」が「税」であったように、まさに物価高に苦しむ国民の声からくる一文字であったと思います。

さて、本日の中央委員会は、スズキ労連としての2024年総合生活改善の取り組み方針、また、次期参議院選挙の組織内議員の推薦候補者の確認と、大変重要な案件を決定していく極めて重要な場となります。

組織内議員の推薦については、私たち労働組合も生活者、勤労者の立場から、個別の企業労使では解決出来ない課題、例えば、自動車税制の見直し、医療・介護や年金、子育て支援といった社会保障制度の見直しや、物流の2024問題をはじめとした労基法に関連した問題など、政治の場でしか解決できない課題が多くあります。私たち自動車産業に働く者の声を政治に反映していくことは必要不可欠であり、その為には我々の代表を国政の場に送り出していく必要があります。ぜひ皆さんのご理解とご協力をお願いしたいと思います。

一方で、政治については、年末に発覚した裏金問題はこれまで以上に政治不信と政治離れを引き起こしかねません。膿をしっかりと出し切り、国民と同じ目線、国のため、国民のために何ができるのか真剣に考える政治になってほしいと思っています。

春の取り組みの具体的内容については、後程、事務局長より提案しますが、方針の策定にあたっては、産業・企業の実態を直視し、今求められている労働組合としての役割、責任を踏まえ、これまでの間、中央執行委員会にて方針案を論議・検討してまいりました。

私からは、取り巻く環境及び、今次取り組みの持つ意義を中心に、いくつか所感を述べさせていただきます。

まずは取り巻く環境についてですが、10月のIMFの経済見通しによりますと、世界経済成長率は2022年の3.5%から減速して、2023年は3.0%、2024年は2.9%の見込みとなっており、世界経済の回復ペースは依然遅く、地域間の格差も広がっていることから、今後の状況に十分注視が必要です。

日本経済は、12月19日に閣議決定された内閣府の政府経済見通しによると、景気は“このところ一部に足踏みもみられるが、緩やかに回復している”としており、先行きについては“雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される”と判断しています。2023年度については、「半導体の供給制約の緩和等に伴う輸出の増加やインバウンド需要の回復等から外需がけん引し、成長率は実質で1.6%程度、名目で5.5%程度と見込まれる」としており、2024年度は、個人消費や設備投資等の内需がけん引する形で、成長率は実質で1.3%程度、名目で3.0%程度と見込まれる。としています。

また、自動車産業を取り巻く環境は、半導体不足の段階的な解消により、生産・販売ともに回復傾向ありますが、金属産業では求人者数が増加している一方で、それを求める、求職者数の減少により、人材確保に向けた課題が顕著化しており、慢性的な人手不足が続いています。

また、一人当たりの付加価値生産性は、他産業と比べても高いものの、賃金については、全産業水準に留まっており、課題解決のためには、魅力を高め、選ばれる産業にしていかなければなりません。賃金についても労務費を含む価格転嫁が行える環境整備を一層押し進めていく必要があります。

そして、スズキを取り巻く環境ですが、スズキグループ全従業員の努力と協力により、第二四半期連結決算では、売上高は1兆3,555億円、営業利益1,297億円、経常利益が1,330億円という結果となり、上期4-9月の、売上高、営業利益、経常利益は中間期としては過去最高となりました。また、通期の売上高も2,000億円の上方修正を行い、通期予想で5兆2,000億円としています。これらは、為替の円安による追い風や、原材料価格の落ち着きに加えて、半導体不足の克服により、生産の正常化を維持できたこと、また、価格改定を含む、売り上げ構成変化の改善等による結果であるとしています。詳しくは決算資料とメーカーのホームページに載っておりますので、ご覧頂ければと思います。いま私たちは、産業の劇的な変化への途上に立っていると認識しております。電動化、自動化、CNと、厳しい環境下の中にあっても、自動車産業は我が国の基幹産業であることから、この総合生活改善の取り組みにより、日本経済のけん引役となり、その役割と責任を果たしていかなければなりません。

そのためにも、昨年から継続している物価上昇や実質賃金の低下から組合員の生活を守るため、賃金引き上げの流れを一過性のものとすることなく、継続的な賃金引き上げを実現させ、自社および産業の魅力を高めていくことで深刻化する人材確保・定着の課題解決にも繋がっていくものではないかと思っています。

結びに

結びになりますが、各単組が要求構築の結果、導き出される金額・要求金額は、昨年に続き、ここ数年の要求額より、数段上のものになると認識しております。現状の姿、あるべき姿、ありたい姿これを経営にしっかりと訴えていくことが労働組合としての責務とも言えるかと思っています。

加盟組合の皆さんのご支援とご協力をお願い申し上げます。スズキ労連執行部を代表しての挨拶に代えさせていただきます。よろしく申し上げます。ありがとうございました。



すべての議件を可決・承認頂きました。スズキ労連 第76回中央委員会

【報告承認事項】(報告者)

- ①52期中間活動経過報告(金子事務局長) **拍手にて承認**
- ②52期中間会計決算報告(佐々木副事務局長) **拍手にて承認**
- ③52期中間会計監査報告(梶谷会計監査人) **拍手にて承認**



司会：沼田中執



金子事務局長



佐々木副事務局長

【議件】(提案者)

- ①2024年総合生活改善の取り組み方針(案)の件(金子事務局長)
- ②スズキ労連規程改訂の件(山本副会長)
- ③第27回参議院議員選挙候補者推薦の件(野呂副会長)



梶谷会計監査人



山本副会長



野呂副会長

【来賓あいさつ】

自動車総連組織内議員 はまぐち 誠 参議院議員



はまぐち 誠
参議院議員



いそざき 哲史
参議院議員

【組織内候補予定者あいさつ】

自動車総連組織内議員 いそざき 哲史 参議院議員

【顧問あいさつ】

スズキ労連政治顧問 田口 章 静岡県議会議員

スズキ労連政治顧問 岩田 邦泰 浜松市議会議員



田口 章
静岡県議会議員



岩田 邦泰
浜松市議会議員

【各委員の皆さん】(☆印は委員長)

- 議長：平井 利枝(スズキ労組本部)・風間 陽(スズキ新潟販売労組)
- 資格審査委員：☆山田 直幸(スズキ販売労組・労連中執)・坪田 正彰(スズキ納整労組・労連中執)
- 樋口 剛(スズキ労組大須賀支部)・伊藤 洋基(スズキファイナンス労組・労連中執)
- 議事運営委員：☆石幡 進之介(スズキ労組・労連中執)・松本 雄次(平岡ボデー労組)
- 鈴木 健太郎(ベルソニカ労組)・清水 優司(スズキ輸送梱包労組)
- 書記：末松 辰憲(岐阜スズキ労組)・坂澤 真由姫(スズキ労連)
- 司会：沼田 一幸(スズキ部品富山労組・労連中執)



議長団
左)平井 利枝 中央委員
右)風間 陽 中央委員

第27回参議院議員選挙(比例代表)組織内候補予定者決意表明

氏名 **儀崎 哲史**

生年月日：1969年4月7日生
(選挙時年齢56歳)

所属：国民民主党

参議院：経済産業委員会委員
憲法審査会委員

国民民主党：副代表

広報局長

参議院国会対策委員長

経済調査会事務局長

エネルギー調査会事務局長

憲法調査会事務局長

東京都連会長

広島県連代表

労働組合：全日本自動車産業労働組合総連合会
(自動車総連) 顧問

全日産・一般業種労働組合連合会

(日産労連) 顧問



「いそざき哲史10年の成果を振り返る」

今回改めて皆様に自分自身の3度目の挑戦の推薦のお願いをさせていただくにあたり、次の6年間全力で活動が出来るという心積もりがないのであれば、推薦のお願いはできないと思いました。自分自身の10年間の活動を振り返り、全国各地で支えてくれている仲間の為にどれだけのことが出来るのかを考えました。

今、私たちの産業を見ると、カーボンニュートラル、AIの普及による自動運転や職場の働き方の変化があります。人口減少問題と人手不足、育児に老後問題と問題は山積です。私は、職場では開発エンジニアとして仕事をし、その経験を持って労働組合では賃金交渉、雇用問題を会社と交渉してきました。さらにはバイクーズ議員連盟を国会内に作り、ライダー目線の政策が進められるような取り組みもしてきました。

様々な自分の経験を活かし問題に取り組み、目の前の課題をこれからも解決していくために推薦のお願いをさせていただきました。これまで以上に職場の皆さんの声に耳を傾け、解決するための活動をし、胸を張って職場の皆さんに紹介していただける取り組みを私自身重ねてまいります。

皆さんと一緒にこの1年半の活動を乗り切り、勝利に向けて最後まで活動してまいりますことを改めて皆様にお誓い申し上げまして、ご挨拶、決意とさせていただきます。本日はありがとうございます。

2024年「スズキ労連 政策制度・政治研修会 開催」



会場の様子



組織内議員 トークセッション

連合の取り組みと課題について



連合 運動企画局 春田局長

自動車総連が掲げる政策について



自動車総連 業種政策局 渡邊部長

1月20日(土)9:30より、2024年政策制度・政治研修会を開催しました。今回はSUN会館参集での開催となり、全体で147名(男性127名 女性20名、内WEB参加者31名、女性参加率13.6%)が参加しました。組織内議員トークセッションでは、自動車総連組織内議員のいそぎ哲史参議院議員とはまぐち誠参議院議員、スズキ労連政治顧問、田口章静岡県議会議員、岩田邦泰浜松市議会議員よりそれぞれ活動報告を頂き、直近の政策課題、自動車産業の政策課題に関する取り組みについて理解を深めました。また、連合の春田局長、自動車総連の渡邊部長より、連合、自動車総連の政策・活動方針について講演を頂きました。

組織内議員活動報告

私たちの代表して日々国会・県政・市政で活躍している組織内議員のオフィシャルサイトをご紹介します。



いそぎ 哲史
参議院議員
オフィシャルサイト



はまぐち 誠
参議院議員
オフィシャルサイト



田口 章
静岡県議会議員
オフィシャルサイト



岩田 くにやす
浜松市市議会議員
Facebookサイト



仕事、職場、労働条件、コンプライアンス、人間関係、私生活…
悩みはいろいろあるけれど、職場ではちょっと相談しにくいなあ。

こんな時にはお電話を!

0120-500-073

*月～金 9:00～18:00

相談無料・秘密厳守



【スズキ労連】 機関誌に対するご意見・ご要望がございましたら編集部までお気軽にお寄せ下さい。

編集部 〒432-8062 浜松市中央区増楽町20
TEL.053-447-3079 FAX.053-489-5523
e-mail: jimbo@suzuki-union.or.jp

◇スズキ労連ホームページ◇

<http://saw.gogo.tc/>

*スズキ労連の福利厚生・

スズキ労連機関紙

共通パスワード… saw2007



【編集後記】

令和6年能登半島地震により被害に遭われた皆さまへ、心からのお見舞いを申し上げます。ご家族や大切な方々を亡くされた皆さまへ、謹んでお悔やみを申し上げます。

1月19日に開催した「第76回中央委員会」で春の取り組み方針が満場一致で可決されました。これから本格的な春の取り組みがスタートしていきます。組合員一致団結して満額回答をめざしましょう! じんじん